

トップメッセージ

スポーツを軸とした企業活動を通して、社会的な責任を果たしてまいります。

スポーツ・ファーストの想いを、社員自らが実践すること。

何よりもスポーツを一番に考え、心から愛し、自ら実践し、スポーツのチカラを信じる「SPORTS FIRST:スポーツ・ファースト」という私たちの想いの具現化。その大きなひとつが、昨年に引き続き今年も第2回目の大会が開かれた「UTMF:ウルトラトレイル・マウントフジ」です。企業として特別協賛をし、また同時に社員個人が選手として、スタッフとして、応援する観客として様々な形で参加しました。スポーツが持つ一体感や達成感、そして非日常の特別な感動など、選手としてだけでなく様々な立場でこの一大イベントに関わることで、スポーツの素晴らしさに共感し、それを共有することができました。そこにあるのは、楽しさやおもしろさを超えた、奥深さです。加えて、ザ・ノース・フェイスでサポートを続ける三浦雄一郎さんの世界最高齢でのエベレスト登頂成功など、これからもスポーツを軸とした企業活動を通して社会的な使命と責任を果たせるよう、いっそう自覚を高め、さらなる努力を続けてまいります。

スポーツを通して、次世代の人材を育成しつづけること。

ゴールドウインは、次世代を担う子どもたちの心身を健全に育むスポーツの機会を継続的かつ積極的に提供しています。25年以上続くスキートの「ナスターレース」や、スポーツを通してバランスの取れた人間形成を目指す「MIPスポーツ・プロジェクト」をはじめ、テニスの「プレミアム・デー」や「カターレ富山サッカー教室」、「ジュニアチャレンジゴルフ大会」の支援など、スポーツを通して子どもたちを育てる活動を続けられるのも、私たちが支援する活動が社会からも評価をいただけていることの証だと受けとめています。これからも、その裾野を広げるために、続けていくことの価値を大切にしております。

お客様が本当にほしいと思われるものをつくること。

創業以来、「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を企業理念としてきたゴールドウインは、スポーツを通して豊かな健康社会を実現することを使命としてきました。当社の原点は、「品質本位」「お客様本位」にもとづく「ものづくり」です。創業以来この基本方針のもと、スポーツ用途はもちろん、スポーツ用途で開発した機能を日常生活においても積極的に使っていただけるよう商品の開発に努めてきました。どんな技術力も、お客様から評価されてこそ初めて意味を持ちます。そのためにも、直営店をより活用し、お客様の声に耳を傾け、本当にほしいと思われるものへの「気づき」をご提案しながら、お客様のニーズと合致する商品をご提供するためにこだわりぬくこと。だからこそ、従業員ひとりひとりが「SPORTS FIRST:スポーツ・ファースト」の価値観を大切にすることが重要であると考えています。

限りある資源の有効活用を、さらに進めてまいります。

当社はISO14001の認証を取得していますが、省資源活動や環境配慮型商品を開発するだけにとどまらず、従業員ひとりひとりが環境を意識して活動することを心がけています。環境保護に関する「GREEN IS GOOD」というテーマを掲げたのが2008年。以来、製造から販売までの過程において、環境負荷の低い材料を積極的に使用し、長く商品を使用していただくことこそが最大のエコであると訴求してきました。これまで、ポリエステルやナイロンといった石油由来の化学繊維を再生して使用する循環型リサイクル・システム「GREEN CYCLE」についても積極的に推進してまいりました。さらに今年は「グリーンダウンリサイクルプロジェクト」を開始。ダウン製品を回収し有限資源であるダウンを再利用しながら、新しい商品として生まれ変わらせます。環境保護活動は、やはり継続することこそ重要であると考えています。

2013年7月

株式会社ゴールドウイン

代表取締役社長 西田明男



目次

トップメッセージ ——— 1
CSRに対する基本的な考え方 ——— 3

特集1 **SPECIAL REPORT**
SPORTS FIRSTの実践として、UTMFの感動を共有 ——— 4

特集2 **FOR THE FUTURE** スポーツで次世代を育成する ——— 7

OPEN 社会に開かれた経営 ——— 12

コーポレート・ガバナンス体制／内部統制システム／コンプライアンス研修

FAIR 企画・生産から販売までのバリューチェーン ——— 14

心と体を楽しく整え、毎日を健やかに過ごしたい方のためのセレクトショップ「Saturday in the park(サタデー・イン・ザ・パーク)」／女性のためのアウトドアライフスタイルを提案する「ザ・ノース・フェイス3(march)」／直営の旗艦店で各ブランドの価値を発信しています／60年余の伝統が可能にした高機能、高品質と「日本らしさ」「Exclusive Model」コレクションを欧州・北米にて展開／長く愛用していただくために／お客様からのお問い合わせへの対応／接客ロールプレイングテストで販売スキルを向上／「サプライヤー行動規範」遵守の覚書を93%のサプライヤーと締結

CLEAN 環境保護への取り組み ——— 18

環境を考える製品開発コンセプト「GREEN IS GOOD」／富山、石川県の高校5校で使わなくなった体操着を回収／限りあるダウンを回収・再生する「GREEN DOWN RECYCLE PROJECT」／日本の海岸をきれいにする「ビーチクリーン作戦」／「グリーン電力」でアースデイ東京に2013年も特別協賛／2012年の活動報告／ISO14001認証取得

PASSION スポーツとともに情熱的に働く ——— 22

企業人であることとアスリートであることの両立を支援／活発なクラブ活動／秋の運動会でスポーツを通じたコミュニケーション／自転車通勤を社内制度として奨励／歩くことから健康をクリエイトする「ウォーキングキャンペーン」／身体と精神をいつもベストコンディションに保つ／ワークライフバランスを大切に生活で明日へのパッションを創出／安心して働けるよう、万全の防災対策整備

SOCIAL 誰もがスポーツを楽しめる社会へ ——— 26

「試合がしたい」という部活生の声から生まれた、高校バスケットボール部が参加できるトーナメント「チャンピオンカップ2012」／プロテニスプレーヤーと地元ファンが交流する「第11回甲府国際オープン2013」／佐渡島を楽しみつくす自転車レース「2012 スポニチ佐渡ロングライド210」／新緑の湖畔を一周する「第32回スポニチ山中湖ロードレース」／女性ランナーが都会の木立を駆け抜ける「渋谷・表参道 Women's Run」／障がい者福祉を支援する取り組み「寛仁親王記念第14回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」／町並みにふさわしい店舗として京都市が指定「ザ・ノース・フェイス京都店」／若い世代の挑戦を応援する／アウトドア自然保護基金「コンサベーションアライアンス ジャパン」に参加／バリアフリーなユニバーサル水着を開発

会社情報 ——— 30

CSRレポートについて

本レポートは、ゴールドウイングループについてより多くを知っていただくため、毎年発行しているものです。昨年度よりCSRの五つの柱として定めた「OPEN」「FAIR」「CLEAN」「PASSION」「SOCIAL」に沿ってページを構成しています。当社は「身の丈にあった、継続的で、全員参加によるCSR推進活動」をモットーに、これからも積極的にCSR推進活動に取り組んでまいります。本レポートならびに当社のCSR推進活動に対するご意見、ご感想、ご要望などをお待ちしております。

※環境面への配慮から本レポートは印刷せず、当社ホームページのみでの公開としております。

報告範囲

対象期間：2012年4月から2013年3月の活動を中心に、一部直近の活動を含みます。

対象範囲：ゴールドウイングループ全16社を対象としております。

発行：2013年7月

発行責任者：管理本部総務部

主要コミュニケーション媒体

ゴールドウイングループホームページ：<http://www.goldwin.co.jp/>

CSRレポート：<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr>

会社情報：<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/about>

SPORTS FIRST

「スポーツ・ファースト」という新しいタグラインのもと、開かれた経営、顧客満足、社員育成、地域や社会への貢献、地球環境や生態系への配慮という五つの柱で、スポーツを通じた豊かな暮らしの実現と、社会の発展に寄与することをめざします。

● 企業理念

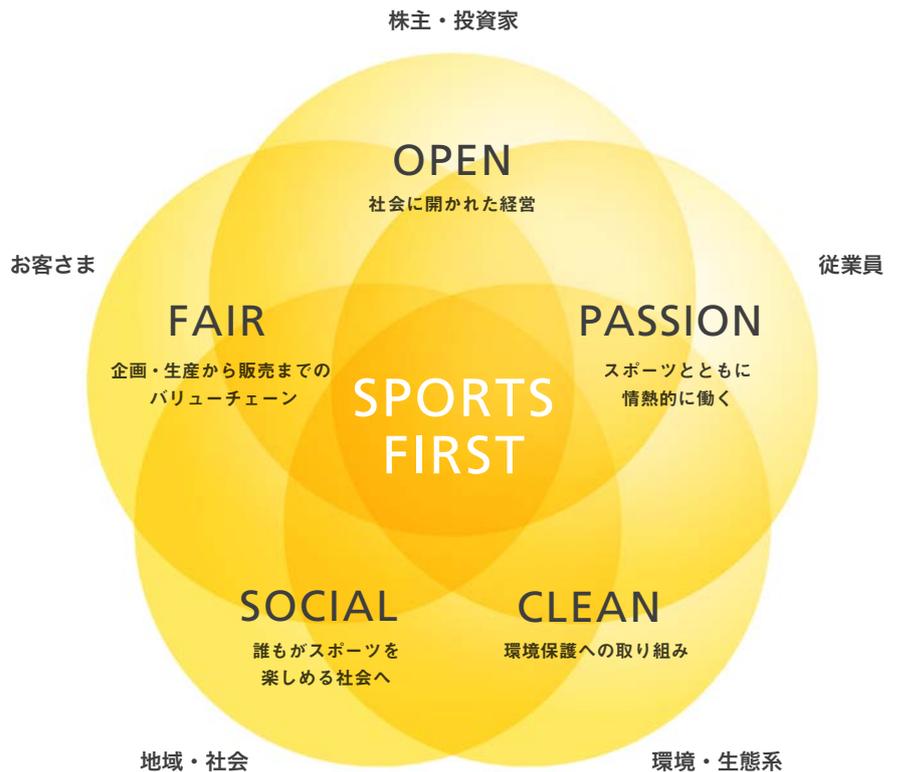
スポーツから、もっと健やかで楽しい明日へ。1950年の創業以来、「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」を企業理念としてきたゴールドウインは、スポーツへの想いを込めて、2012年に新しいタグライン「SPORTS FIRST:スポーツ・ファースト」を掲げました。スポーツを心から愛し、実践し、その力を信じる。ゴールドウインはスポーツを通じてクオリティ・オブ・ライフの向上に寄与します。

● CSR基本方針

上場企業に求められる高いレベルでの経営の透明化、お客さまの手に商品が届くまで、製造から販売に至るあらゆる段階で心を配ること、従業員がのびのびと健康に働きつづけられる職場環境づくり、そして地域・社会へのスポーツを通じた貢献や、地球環境・生態系への配慮。これらすべてを当社は「スポーツ」への敬意と情熱を通じて実現してまいります。

● CSR推進体制

当社の役員および関係会社代表が出席する「CSR推進委員会」を設置。CSR推進委員会で決定された基本的な活動方針は、グループ従業員全員に徹底され、各部門および個人レベルで具体的な活動を推進します。



SPECIAL REPORT

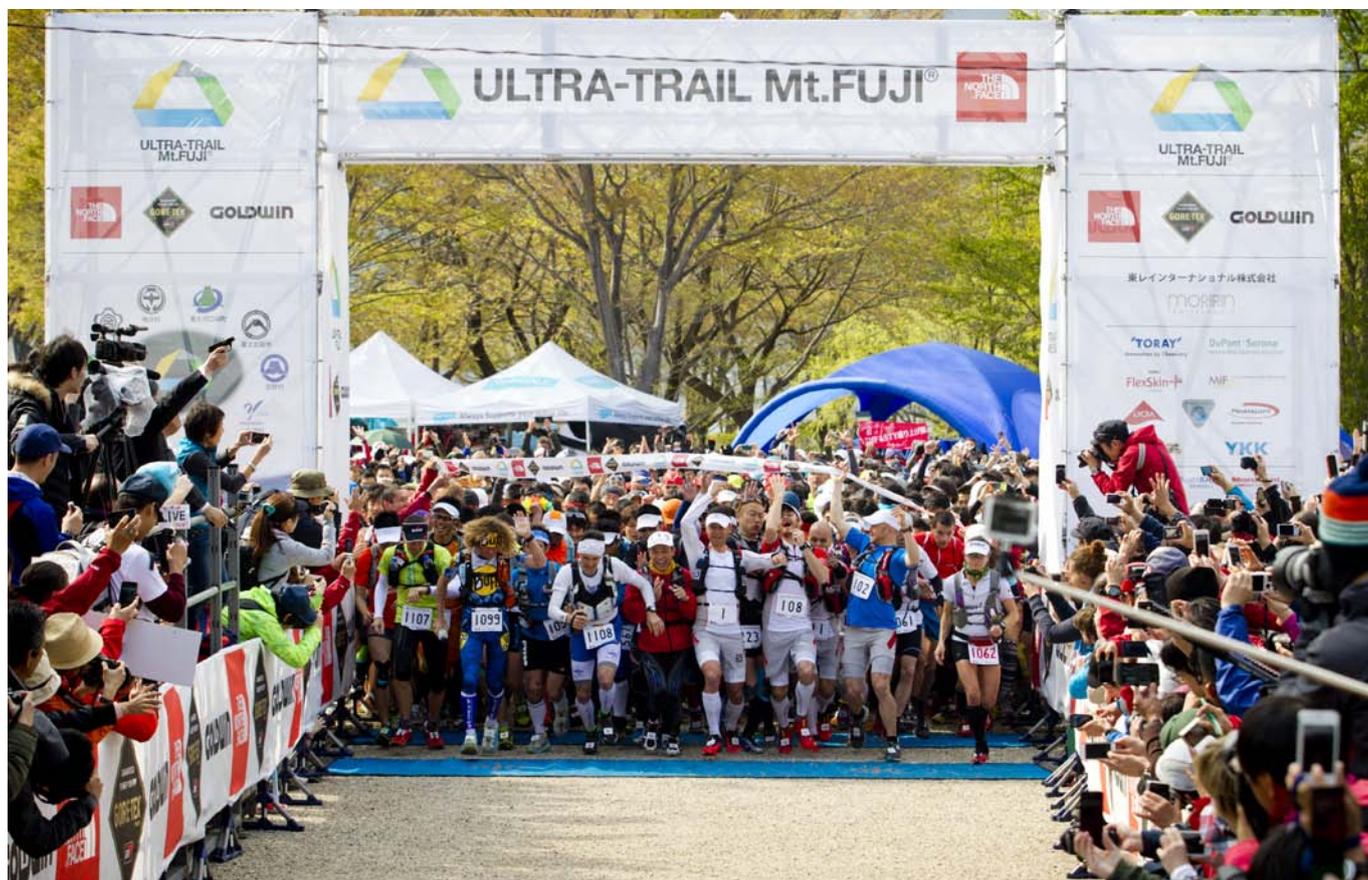
SPORTS FIRSTの実践としてUTMFの感動を共有

富士山麓を約2日間かけて駆けぬげる極限のレース。ゴールドウインが特別協賛する「UTMF：ウルトラトレイル・マウントフジ」に参加するのは、選手だけではなく、運営スタッフとして、選手のサポート役として、そして応援のために、全員がこの壮大な大会の当事者として関わること。それはまさしく、「SPORTS FIRST：スポーツ・ファースト」の実践でした。

極限に挑むレースに、 みんなが様々な形で参加した。

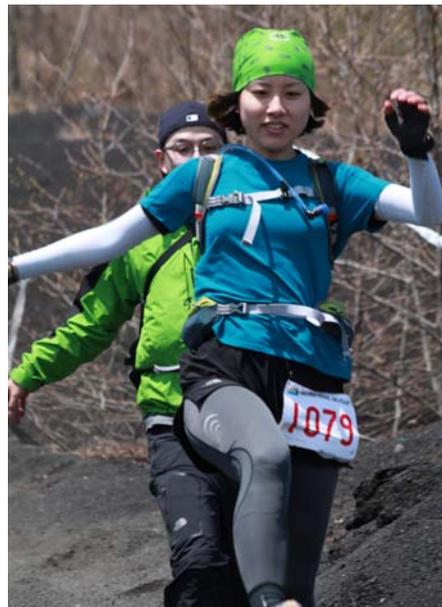
昨年に引き続き、第2回目の開催となる「UTMF：ウルトラトレイル・マウントフジ」と「STY：シズオカ・トゥ・ヤマナシ」が、2013年4月26日(金)スタートで行なわれました。ゴールドウインは企業として今年も特別協賛。また、社員および販売スタッフ個人としても、UTMFに男子

7名女子1名の8名、STYに男子10名女子1名の11名が参加しました。それぞれ、富士山麓を1周(161.0km)と半周(84.7km)、制限時間46時間と24時間以内のゴールを目指すという極限に挑むレース。世界から集まった参加選手たちは、それぞれ991名(男子829名、女子162名)と937名(男子835名、女子102名)でした。この壮大な大会のサポート役として、80名を超える社員が運営スタッフとして参加。さらに多数の社員が選手のサポートや応援に駆けつけ、まさに「SPORTS FIRST：スポーツ・ファースト」の想いを共有したのです。



選手も、スタッフも、観客も、 全員が当事者になる。

この大会では、自ら走る人、参加選手をサポートする人、大会そのものを支え応援する人、それぞれのスタイルは違いますが、そこにいる全員がまさしく「SPORTS FIRST: スポーツ・ファースト」の実践者であり当事者になります。そこには、傍観者はいません。スタートの前、選手たちの無事を祈る全ての人も、同じようにこの大会の参加者なのです。UTMF参加選手の装備チェックは、すべてゴールドウインのスタッフが担当します。選手として参加する同僚を激励する経験は、日常の仕事の中で感じるものとは違う、特別な仲間意識なのかもしれません。固い握手やハグを交わすゴールドウインの選手と仲間たち。もちろん、全員の無事を祈ります。スタート後、応援するスタッフたちはみんな、エイドステーションやロードサイドに向かいます。同僚の選手を応援するだけでなく、全ての選手を応援するために。その気持ちこそが、この大会に関わるひとりひとりが感じることでできる貴重な経験なのです。



スポーツは、きっと、 人を変えることができる。

UTMFの全体で266位、女子では27位に入った村井絢子さん(ノースフェイス事業部)は、「アウトドア事業でアパレル企画を担当し、自分でも走るようになり、どんどん本気になって、ここまで来てしまいました」と笑います。ゴールドウインからの参加選手は、商品の企画に関わるスタッフ、販売に関わるスタッフ、財務に関わるスタッフ、様々です。そこにあるのは、普段の仕事をする中で、自分自身が「SPORTS FIRST: スポーツ・ファースト」になっていったということ。その想いがUTMFという壮大な大会を走破することに続いていたということ。それが、けっしてゴールドウインの関係者だけのものではなく、この大会に関わる全ての人の共通の気持ちになることを願います。スポーツが持つ一体感や達成感、そして非日常の特別な感動は、人を変えることができるのだと思います。この大会の特別協賛を通して、これからもゴールドウインはスポーツの奥深さを具現化していきます。



FOR THE FUTURE

スポーツで次世代を育成する

未来をつくるのは子どもたちです。スポーツを通じて子どもたちの心身を健やかに育成し、次世代のアスリートを生み出す環境づくりをすることも、スポーツ・アパレル企業にとっての重要な役割です。当社は地域社会や協力企業と連携し、親子参加型から、トップアスリートの指導や海外大会への派遣を体験できるものまで、さまざまなかたちで、子どもたちのスポーツ育成に取り組んでいます。

ナスターレース大会へのキッズ参加で 未来のスキーヤーを育成

当社は1981年より、スキー業界の活性化に寄与してきた「NPO法人ナスターレース協会」を支援してまいりました。「ナスターレース(NASTAR RACE)」とは、全国標準のレースである「National Standard

Race」の略称で、基準となるナショナルペースセッターとのタイム差が「ナスターレースポイント(NST-P)」という数値で表されるため、どの大会に参加しても同じ基準で自分自身の技能レベルを知ることができます。例年と同様、今年度もナスターレース大会が各地で開催され、多くの子どもたちの参加を得ました。

NASTARRACE
ナスターレース



FISウイスラーカップ等への チルドレンレース派遣

今回もチャンピオンシップの上位者2名とジャパンカップから8名が日本チームとして、カナダのブリティッシュ・コロンビア州にあるウイスラーマウンテンスキー場で行われた「FISチルドレンレースウイスラーカップ」に参戦（U14クラス4名）。昨年に続き、国別対抗戦でU14が総合優勝という素晴らしい成績を勝ち取りました。ドリームグランプリのU16クラス各種目上位者4名も、スウェーデンで行われるFISチルドレンレース・インゲマル・トロフィーに派遣されることが決定。海外FISチルドレンレースに出場できる選手はウイスラーと合わせて14名となり、より多くの選手に海外大会のチャンスが与えられました。

ナスターレースオフィシャル・チルドレンオフィシャル

今シーズンの「ナスターレースオフィシャル(公認大会)」は全国で51大会(59レース)が行われました。昨年に引き続き、長野県観光協会のスキー王国NAGANOのイベント「スノーキッズ」の一環として、長野県下にて行われるナスターレースポイント算出大会での独自ランキングも行いました。

「2013ゴールドウイン ナスターレースCHILDREN/KIDS CHAMPIONSHIP 東北決勝大会」

(2013年3月2日、開催地:ナクア白神スキーリゾート[青森県]、エントリー数:331名)

東北6県にて行われる県予選を勝ち抜いた選手が出場できる決勝大会です。その県予選は(一部大会を除き)県外からの選手も出場可能な大会として実施されており、苗場のジャパンカップと同様にウイスラーカップ派遣選手選抜大会として、東北以外からも注目を集めています。

「第14回ゴールドウイン ナスターレースCHILDREN/KIDS JAPAN CUP」

(2013年3月9～10日、開催地:苗場スキー場[新潟県]、エントリー数:351名)

カナダ、韓国からの海外選手を招き、東北決勝大会上位者や地域ランキング、昨年度のNAGANOジュニアカップシリーズ優勝者などが今年も参加しました。大回転種目では、ナショナルペースセッターの大越選手が前走。現役ナショナルチームの選手から直にポイントが算出され、参加者にとってはまたとない機会になりました。

「桐灰化学Presents 2013ゴールドウイン ナスターレースCHILDREN/KIDS Dream Grandprix」

(2013年3月16～17日、開催地:朝里川温泉スキー場[北海道]、エントリー数:103名)

本州の苗場まで来場することが難しい北海道の選手たちが、ジャパンカップと同様の規模、内容、チャンスを得られることを目的として実施しています。国内では開催が少ないスーパー大回転と大回転を行い、U16クラスでは、二日間の大会各日の上位者、計4名をFISチルドレン大会(スウェーデン・インゲマルトロフィー)へ派遣する選手として選抜しました。



子ども、親子向け学習型 トレッキングイベントで生きる力を育む THE NORTH FACE 7 NATURE USAGI KIDS EXPLORING PROGRAM

ザ・ノース・フェイスは、未来の地球を受け継ぐ子ども達に「生きる力」を育んでもらいたい、という思いから、「THE NORTH FACE 7 NATURE USAGI KIDS EXPLORING PROGRAM」という取り組みを始めました。「EXPLORING (エクスプローリング) = 探検、切り開く」という言葉が示すとおり、子どもたちが日常から離れ、自然の中を探検することでさまざまな学びを体感すること、そしてその学びを日常に活かし、未来を切り開いていけるようになることをめざしています。

第1回 2012年6月24日(日) 神奈川県 幕山 - 南郷山トレッキング

眼下に広がる海や半島の景色を眺め、植物や動物の足跡など自然にも触れながら、ソーラーパネルを背負ってのトレッキングを行いました。子どもたち同士が知恵を出し合い、助け合いながら頂上をめざすという都会ではできない時間を過ごしました。

第2回 2012年8月4日(土) 神奈川県 鷹巣山 - 千条ノ滝親子トレッキング

親と子が共に自然について学べるよう、第2回目は親子参加によるトレッキングを開催しました。当日は天候が安定していなかったため、予定していた浅間山はショートカットし、千条ノ滝より鷹巣山の頂上を経て、飛竜ノ滝の前で涼みました。

第3回 2012年10月21日(日) 山梨県 大洞山 - 三国山トレッキング

籠坂峠からアザミ平へ、薄化粧を施した紅葉を横目に、樹林の中で植生や太陽の力を実際に体感しながら学びました。大洞山、三国山のピークを越えて鉄砲木の頭(明神山)を目指し、山旅では雲一つない快晴の富士山と山中湖を見晴らせました。

「7 NATURE USAGI(セブン・ネイチャー・ウサギ)」とは？

アウトドアや環境に対する考え方を子どもたちに伝えていくことを目的とした、Earth Kids Project から発生したキャラクターです。このトレッキングイベントは、7匹のネイチャーウサギのうち、クライミングのエキスパートであるキャラクター「reck(レック)」とともに子どもたちが自然の中へ飛び出すプログラムです。



未来のアスリートを育てる 「スポーツゲームズ」に特別協賛

「スポーツを通じた子どもたちの健全な育成」という観点から、トップアスリートの指導によるスポーツ体験を通して、子どもたちの新たな可能性を広げるイベント「スポーツゲームズ」を当社は2002年より特別協賛しています。これは特定非営利活動法人 MIPスポーツ・プロジェクトが1年を通じて全国各地で開催しているもので、それぞれの地域でスポーツにかかわる企業や団体、施設と連携し、スポーツクリニックなど地域のニーズにあったプログラムが実施されています。2001年3月から始まったこの催しは現在までに190回開催され、のべ約98,500人が参加しています。



2012年度は以下の全国7か所で行われ、のべ1,923人の子どもたちがこのイベントに参加しました。

- ・三重県津市 2012年7月1日(日) 参加者: 220名
- ・岐阜県下呂市 2012年9月30日(日) 参加者: 479名
- ・山形県山形市 2012年10月7日(日) 参加者: 278名
- ・神奈川県厚木市 2012年10月20日(土) 参加者: 157名
- ・三重県いなべ市 2012年10月28日(日) 参加者: 431名
- ・岩手県一関市 2012年11月17日(土) 参加者: 76名
- ・鳥取県鳥取市 2013年3月9日(土) 参加者: 282名

「特定非営利活動法人 MIPスポーツ・プロジェクト」とは？

「モラル(M)・インテリジェンス(I)・フィジカル(P)」のバランスの取れた人間形成、日本のスポーツ文化の向上、アスリートのセカンドキャリアの構築、新しいスポーツ産業の創造を目的に活動をしているNPO法人です。現役引退後のアスリートが自らの経験を生かし、子どもたちやその保護者、指導者たちに「スポーツの楽しさ」や「スポーツ文化の素晴らしさ」を伝えてきました。主幹事業である「スポーツゲームズ」をはじめ、「ジュニアサッカースクール」「バスケットボールクラブ」なども開催しています。



「循環型リサイクルTシャツ」で子どもにも 環境への意識を

「スポーツゲームズ」に参加する子どもたちへ向け、「循環型リサイクルTシャツ」(不要になった時に店舗で回収し、新たな繊維として生まれ変わるTシャツ)の提供や展示を行っています。イベントスタッフへのユニフォームとして提供されるほか、「くりかえし使う」ことによる環境への配慮を参加した子どもたちに伝えることに役立っています。



東レ パン・パシフィック・テニス2012 「プレミアム・デー」

2012年9月22日(土) 会場:有明テニスの森

エレッセは東京・有明テニスの森で開催される『東レ パン・パシフィック・オープンテニストーナメント』を、オフィシャルパートナーとして18年にわたって協賛してまいりました。この国内最大の国際テニストーナメントに、エレッセは大会オフィシャルウェアとして、すべてのスタッフウェアと、全選手が使用するオフィシャルタオルなどを提供しています。

大会の本戦開催に先立って行われた恒例の「プレミアム・デー」には、テニスをこよなく愛する大人の男女50名と、未来のプロ選手を夢見るジュニア50名が一般公募により参加。瀬間友里加・詠里花選手をはじめとするTEAM ellesseメンバーによるアドバイスを受れたり、プロ選手たちとのラリーを楽しむなど充実した内容でした。この参加者のなかから、未来のプロ選手が生まれてくるかもしれません。



ジュニアチャレンジゴルフ大会

2012年8月9日(木) 会場:ゴルフ倶楽部ゴールドウイン

ゴルフ倶楽部ゴールドウインでは、独自のジュニア競技の開催やジュニア大会・ジュニアレッスン会の会場誘致により、次世代のゴルフプレーヤー人口の拡大と育成に貢献しています。2012年で第3回目を迎えた本大会は、初心者救済ルールを設け、経験が少ないプレーヤーも参加できる内容です。小学4年生から高校生までの日本ゴルフ協会(JGA)ジュニア会員登録者を対象とし、競技は18ホールストロークプレースクラッチ方式で行われました。当日は30人の選手が参加。和気あいあいとした雰囲気で行われた表彰式では、各優勝者に賞状、3位以内の入賞者全員にゴルフグッズが贈呈されました。



カターレ富山サッカー教室

2012年10月27日(土) 会場:小矢部運動公園

当社がオフィシャルパートナーを務める「カターレ富山」の選手を講師としてお招きし、小矢部市内のスポーツ少年団(津沢、大谷、蟹谷の3チーム)所属の小学生(低学年)44名と、ゴールドウインサッカー部の女子社員14名を対象とするサッカー教室を開催。プロ選手を相手にしてのボール回しやシュート練習のほか、ミニゲームも行われました。



OPEN | 社会に開かれた経営

企業経営に一層の透明性が求められる時代に、当社はコーポレート・ガバナンスをはじめ、内部統制、コンプライアンスの体制を整え、開かれた経営を実践するとともに、従業員すべてが強い遵法意識をもつことで、良識ある企業として社会への責任を果たします。

コーポレート・ガバナンス体制

ゴールドウイングループは、公正かつ効率的な企業経営の実現と、激変する経営環境へのスピーディな対応を目的として、コーポレート・ガバナンスの充実を、経営の最優先課題としております。

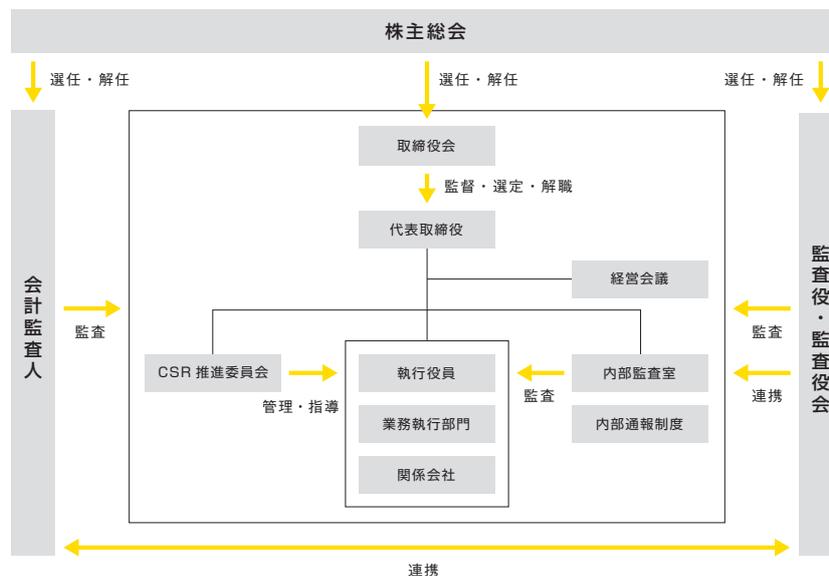
取締役の職務責任を明確にするために、その任期を1年と定めています。取締役会は原則として月1回の頻度で開催されますが、必要に応じて不定期でも開催されます。取締役会では法令で定められた事項および重要事項の決定を行うとともに、業務の執行状況を監督し、その進捗報告を実施いたします。なお、取締役8名のうち、1名は社外取締役であります。

また執行役員制度を導入し、取締役会が任命する執行役員は各々の領域で委譲された権限のもと、取締役会が決定する経営戦略にもとづき業務を執行します。取締役と常勤監査役、執行役員で構成される経営会議は、事業執行に関する重要事項などを審議決定するために、原則として月1回開催されます。

監査役会は4名で構成され、うち3名は社外監査役です。監査役は取締役会で意見を述べ、取締役の業務執行状況の監督を行うことによって、健全な経営と社会的信用の向上に努めます。

内部監査を担当する内部監査室は、他の業務執行組織から独立しています。その客観的な立場より、法令および社内規程の遵守状況の確認を行うとともに、業務と経営効率の改善／向上、内部統制システムの運用状況のチェックを行い、その結果を代表取締役、業務執行取締役および常勤監査役に報告します。

当社は会計監査人に新日本有限責任監査法人を選任しています。会計監査人に正しい経営／財務情報を提供し、公正普遍的な立場から監査が実施される環境を整備しております。



内部統制システム ～適正な業務を保证するための体制

「スポーツのある豊かな暮らしを築き上げること」という企業理念、経営方針および行動規範に示される経営戦略ミッションを、ゴールドウイングループ全役員によって具現化するために、適切な組織の構築や、規程・ルール of 制定、情報の伝達および業務執行のモニタリングを行う体制として、内部統制システムを整備・維持しております。また内部統制システムは適宜見直され、改善を行ない、適法かつ効率的に業務を執行する体制の確立をはかっております。

2008年4月より適用された「金融商品取引法」による内部統制報告制度に対応するために、「ゴールドウイン財務報告基本方針」も制定。財務報告に関する内部統制を強化する体制を整備しました。

内部統制システムの基本方針

(<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-B>)

企業行動規範・従業員行動基準

(<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/open#section-E>)

コンプライアンス研修 ～履修者が91%に向上

当社では2008年に「企業行動規範」と「従業員行動基準」を改定し、企業に求められるコンプライアンスへの理解を深めるための社員研修を、継続的に実施しています。またすべての従業員には、倫理的な行動の指針となるよう携帯用の「コンプライアンスカード」を配布し、常時携帯するよう指導しています。

2012年度はコンプライアンス研修を35回にわたり実施し、平均履修率は前年度の約80%から91%にまで高まりました。また東京オフィスの管理職を対象に、研修の場として東京証券取引所から講師をお招きした「インサイダー取引規制セミナー」を実施。上場企業としての信頼を守るため、コンプライアンスへの理解を徹底しています。

研修実施実績

	回数	対象数	出席数	出席率
全社計	35	1,072	977	91.1%



FAIR | 企画・生産から販売までのバリューチェーン

多様化するニーズに応えた商品企画。一流アスリートたちのハイレベルな要求を満たす機能・品質。ユーザーの声を確実に受け止めるための、直営店や自主管理売り場を活用したマーケティング。気に入ったウェアを長く愛用していただくためのリペアサービス。製品がお客様の手に届くまで、そしてその後も、つねに細やかな心くばりをするのが私たちの使命です。

心と体を楽しく整え、毎日を健やかに過ごしたい方のためのセレクトショップ 「Saturday in the park(サタディ・イン・ザ・パーク)」

都会の中で自然を身近に感じることのできる空間、「土曜日の公園」をコンセプトにした Saturday in the park(サタディ・イン・ザ・パーク)は、人や自然との関わりを大切にしながら、心と体を楽しく整え、毎日を健やかに過ごしたい人のためのスポーティーライフスタイルセレクトショップです。ポジティブに自分らしさを表現したいお客さまのために、ブランドの垣根を超えた品揃えが特徴です。「ザ・ノース・フェイス パフォーマンスライン」をはじめとして、「ダンスキン」、「シースリーフィット」を中心に、機能的、シンプルさ、トレンドがバランス良くミックスされた商品を取り揃えており、どのような機能性・シンプルさ・トレンドを求められても、それぞれのご要望に応えられる店でありたい、という希望がこめられています(2012年度末現在、宇都宮、東京・丸の内、東京・渋谷、福岡、横浜・都築の計5店舗を展開)。



各種セミナーも開催

Saturday in the park(サタディ・イン・ザ・パーク)では各種セミナーを開催することで、スポーツとともにあるライフスタイルを積極的に提案しています。2012年度には6月の福岡IMS店の「Saturday morning run & yoga」を皮切りに8回のセミナーを開催し、ランニングやヨガなどを取り入れた暮らしについて、インストラクターがエクササイズとレクチャーをミックスして紹介しました。

女性のためのアウトドア・ライフスタイルを提案する「ザ・ノース・フェイス3(march)」

アウトドアショップ、ザ・ノース・フェイスの中でも女性に特化した商品を展開している「ザ・ノース・フェイス3(march)」では、ビギナーからベテラン向けまで、幅広く機能とデザインを兼ね備えたスタイルを提案しています。店頭ではさまざまなワークショップを開催し、お客様とアウトドア・ライフスタイルについて学び合う機会を設けており、2012年度も好評シリーズの女性限定ワークショップ、「Base Knowledge」を開催しました。



直営の旗艦店で 各ブランドの価値を発信しています

1968年の創業以来、自然と人間がバランスよく共生するためのスポーツギアを作り続けてきたザ・ノース・フェイス。その国内最大の旗艦店としてTHE NORTH FACE+(ザ・ノース・フェイス プラス) サッポロファクトリー店が2012年9月14日にリニューアルオープンしました。「プラス」の意味は、ヘリーハンセンやアイスブレイカーなど、ザ・ノース・フェイス以外のブランドも扱っていること。「アウトドアゾーン」「ライフスタイルゾーン」「パフォーマンスゾーン」「ヘリーハンセンのゾーン」「アイスブレイカーのゾーン」「キッズゾーン」「ポップアップゾーン」という7つの多種多様な提案で、これまでにはなかった新しいアウトドアライフスタイルショップをめざします。



60年余の伝統が可能にした 高機能、高品質と「日本らしさ」 「Exclusive Model」コレクションを 欧州・北米にて展開

日本のスポーツ・アパレルメーカーとして、当社が60年あまりにわたリスキー、アウトドアシーンで培ってきた技術と経験、そして想いを注ぎ込んだスキーウェア「Exclusive Model」は、“kigokochi”(着心地)へのこだわりと細心の気配りがもたらす「日本らしさ」がコンセプト。素材、副資材のほとんどが日本産、縫製・加工はすべて日本国内です。レーザーや超音波を用いた独自開発の先端技術による無縫製接着加工や、人間工学的な視点が生かされた機能素材「4way ライクラ」などにより、高機能であるのみならず高付加価値を提供する当社の象徴的モデルです。このコレクションは、米コロラド州デンバーで開催された北米最大のウインタースポーツ ショー「SIA SNOW SHOW 2013」(2013年1月31日～2月3日)、ドイツ・ミュンヘンで開催された世界最大級のウインタースポーツ見本市「ISPO MUNICH 2013」(2月3日～6日)に出展し、好評を得ました。



「Exclusive Model」 for Exclusive Skiers

長く愛用していただくために

ザ・ノース・フェイスの製品はすべて、素材や製造上の欠陥が原因であれば無料でリペアを行います。また、その他の理由で修理が必要となった場合も、その内容に即した適正価格でリペアを行っています。自信をもって送り出した製品を、お客様にできるだけ長く愛用していただきたいとの思いから、ザ・ノース・フェイスを取り扱いはじめて以来、30年あまりずっとこのポリシーは変わりません。この制度はアウトドアウェアに限らず、モーターサイクルウェア、スキーウェアなども対象です。

Kid's商品のリペア無償化

将来のアウトドアマンの育成と地球環境に優しいウェアの提供をめざして、ザ・ノース・フェイス、ヘリーハンセンのキッズ・ベビー用品を対象に、シューズをのぞく全商品の修理を2012年より無償で行なっています。活発に動く子どもは転びやすく、ウェアもなにかと破損しやすいもの。しかし修理することで次のお子さんへのお下がりにもでき、環境への配慮にもつながります。



お客様からのお問い合わせへの対応

2012年度もお客様から製品、店舗、カタログ、修理・メンテナンス等について、たくさんのお問い合わせをいただきました。今年度はホームページにFAQ(よくあるお問合せ)のページを新設し、ショップや製品に関するよくある質問と回答を掲載しました。カスタマーサービスセンターのフリーダイヤル回線数を増やしたほか、メールでのお問い合わせもスタートし、サービスの強化を図りました。さらにご希望のお客様へは、より詳しくご案内をするように徹底しています。製品の機能説明や不良品発生時の対応等の社員向けガイドブックも作成し、直営店店頭でも販売社員が正確にお答えできるように指導しています。

このほか快適な店舗づくりとより良い製品づくりのため、お客様からいただいた声を品質保証部で共有し、販売部とともに対応と改善に取り組む店頭クレーム連絡会を開催しています。2012年度は11回実施し、お客様からのさまざまな声を貴重なご意見として共有しました。この連絡会では、接客スタッフの対応や製品に対して寄せられたお客様のご意見にどう対応したか、改善すべき点などを検討します。そして今後も生じることが予想される事項については、対応方法を標準化し社員教育に活用しています。

接客ロールプレイングコンテストで 販売スキルを向上

2012年11月16日、全国の販売スタッフからの選抜メンバーによる「2012年度 接客ロールプレイングコンテスト」を開催しました。販売スキルの向上と、販売員の意思統一を目的としたこの大会では、「好感度」「あいさつ・お声掛け」「言葉遣い」「商品情報・専門情報」「会話力」「ニーズチェック」「提案力・説得力」「クロージング」「お見送り」の9つのポイントで、全国の店舗を対象とした予選を勝ち抜いた11名が来店からクロージングまでの接客技術を競いました。社長、副社長、各店舗の代表者など180名の審査により、最優秀賞1名、優秀賞3名他、敢闘賞が授与されました。



「サプライヤー行動規範」遵守の覚書を 93%のサプライヤーと締結

当社は、公正なルールに則って活動することを「従業員行動規範」の基本方針に掲げています。同様に、海外生産委託先といったサプライチェーンにも、基本方針となる「法令遵守」「労働及び人権」「環境の安全衛生」「環境保全」「安全・安心な製品の生産」「情報管理・公正取引・倫理」に則ることを前提とした「サプライヤー行動規範」を定めています。お客様の多様なニーズやライフスタイルに応えるため、当社ではサプライチェーンのグローバル化を進めてきましたが、海外企業との取引に際しては、「サプライヤー行動規範」の基本方針を遵守するとの覚書の締結を実施しています。この覚書の締結率は、2011年度の80%に対し、2012年度には93%に達しました。監査については3年に一度、遵守状況の確認のため確認書にサインをもとめています。

CLEAN | 環境保護への取り組み

地球環境や生態系の保護、石油原料に依存しない持続可能な社会の構築。こうした今日的な課題にとりくむため、自然との調和をうたった環境基本理念と環境方針を定めています。また製品開発コンセプトとして「GREEN IS GOOD」を掲げ、リサイクルをはじめとする環境保全のためのさまざまな取り組みを継続的に行っています。

環境を考える製品開発コンセプト 「GREEN IS GOOD(グリーンイズグッド)」

自然がステージのスポーツにまつわる製品やサービスを展開しているからこそ、環境のためにできることをつねに忘れずにいたい。そんな当社の基本理念を「GREEN IS GOOD」と名付け、楽しみながら環境への負担を軽減できるアイデアを大切に、環境に配慮した製品の開発などに取り組んでいます。地球に優しい素材を選び、修理しながら大切に使い、最後はリサイクルをして再び製品化する。そのような取り組みを通じて、CO²を削減するという地球環境の保全を、企業活動及び消費行動という流れの中で実現したいというのが、「GREEN IS GOOD」という言葉にこめた願いです。

GREENCYCLE(くりかえし使う)

使用後の製品を回収し、新たな製品として再生しようという「循環型リサイクルシステム」の試みです。ポリエステル、ナイロン繊維製品をリサイクルすることにより、いずれは枯渇する石油原料に依存せず繊維製品そのものを原料として循環させています。

GREEN MATERIAL(選んで使う)

素材を選択する際は、リサイクル可能か、より少ない資源の利用で早く成長する植物を原料としているか、無農薬の畑で作られたかなどを考慮し、環境への負担を最小限に抑えたものを最優先しています。

(素材例：リサイクルポリエステル、オーガニックコットン、ケミカルリサイクルポリエステル、マキシフレッシュ、テンセル、バンブー、ヘンプ、モダール)

GREEN MIND(大切に使う)

お客様に長く愛用していただくため、機能・耐久性・デザインのすべての面において高品質を提供できるよう製品開発を行っています。またアウトドアブランドを中心にWARRANTY(保証)制度を設け、お客様からの修理の依頼に応じています。

— 環境基本理念・環境方針

<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/csr/clean#section-F>

GREEN IS GOOD[®]



GREENCYCLE



GREEN MATERIAL



GREEN MIND



富山、石川県の高校5校で 使わなくなった体操着を回収

GREENCYCLEのハングタグと織りネームをつけた当社製品は、使用後の製品を回収して新たな製品として再生する循環型リサイクルシステムに対応している製品です。学校体操着にGREENCYCLE製品をご採用いただいている富山、石川県の高校にて希望者が投函できる回収ボックスを設置し、卒業する高校3年生の学校体操着を回収する活動をしています。昨年度は3校でしたが、今年度は5校がこの活動に参加。ジャージ上・下、ハーフパンツなど、合計331枚が寄せられました。今年度の回収率は11.8%。来年度はさらに参加校を増やしていきたいと考えています。

これらの体操着は循環型リサイクルシステムにより石油から製造した場合と同品質のポリエステルに再生され、新しい製品として生まれ変わります。



限りあるダウンを回収・再生する 「GREEN DOWN RECYCLE PROJECT」

適切な管理をすれば、じつは人間の寿命よりも長持ちするというダウン（羽毛）。その特性を生かし、限りある資源ダウンを回収、精製し、再び新たな製品に利用するGREEN DOWN RECYCLE PROJECTに2013年9月より取り組みます。現在、世界的に水鳥が食用にされる量は減る傾向にあり、それにともない副産物であるダウンの供給が減少しているにもかかわらず、ダウンウェアなどの流行により、その需要は増加の一途をたどっています。当プロジェクトは、この需給アンバランスを解消するとともに、ダウン焼却の際の二酸化炭素排出を抑えようという試みです。日本におけるダウンのリーディングカンパニーである河田フェザー株式会社との協力により、品質をハイレベルに保持したままりサイクルします。



日本の海岸をきれいにする 「ビーチクリーン作戦」

1877年、ノルウェーで漁師のための防水着メーカーとして創業を開始したブランド「ヘリー・ハンセン」は、以来130年以上、水に関わってきました。水を通して環境貢献活動やエコ商品開発をするHelly Hansen Ocean(H2O)プロジェクトの一環として、2005年から日本全国各地の海岸でビーチクリーンを実施しています。社員とその家族、および一般からの参加者を募り、レジャーとしても楽しめる奉仕活動です。海岸の清掃をしていると、漂着している空き缶やプラスチック、発泡スチロールなどのごみを拾うことも多く、環境に配慮する意識を高める機会にもなっています。今年度は2012年7月7日に鎌倉市材木座海岸にて、7月14日に氷見市・松田江海岸にてビーチクリーン作戦を実施しました。



「グリーン電力」でアースデイ東京に 2013年も特別協賛

アースデイ(地球の日・4月22日)は1970年から続く、地球のため、未来のために行動する日です。この日は世界184の国と地域、約5,000ヶ所で環境フェスティバルが行われます。「アースデイ東京」はその一環として開かれる日本最大のアースデイイベントで、2013年は、4月20日(土)、21日(日)の両日に行われました。当社は今年もこのイベントに特別協賛したほか、その期間中、41店舗の直営店にて、のべ11,000kwhの「グリーン電力」購入を行いました。この活動への参加も、今年で10年目となりました。

[内訳]

- ザ・ノース・フェイス(直営33店舗でバイオマス発電・9000kwhを購入)
 - ヘリー・ハンセン(直営2店舗で風力発電・1000kwhを購入)
 - サタディ・イン・ザ・パーク(直営6店舗で太陽光発電・1000kwhを購入)
- 合計11000kwhを購入。

2012年の活動報告

低炭素社会へ向けての取組

環境汚染の予防～CO²排出量の削減活動の実施 (管理項目: CO²排出量)

トータルエネルギー使用量の削減(電気、ガソリン、重油、ガスなど)を行い、電力削減のため業務改善や作業の効率化をはかり時間外労働の削減を推進しました。また照明・空調生産設備などの見直しによる省エネを提案しました。

【取組結果】

2012年度は、電力使用量を大幅削減した2011年度並みの使用量におさまりました。

循環型社会へ向けての取組

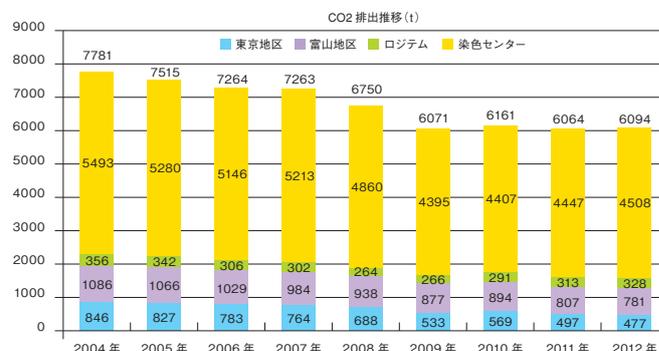
限りある地球資源の有効活用

省資源活動の推進(管理項目: 原材料使用量改善件数)
設計段階や生産段階での歩留まり改善活動に取り組みました。
また物流梱包資材の削減活動を推進しました。

【取組結果】

歩留まり改善件数69件となりました。
今後も内容・件数共に更なる改善をかさねてまいります。

CO²排出量実績推移



産業廃棄物の削減(管理項目: 排出量、廃プラ排出量)

製造から販売段階で発生する産業廃棄物の削減するため返品率低減や不良防止活動、余剰生地再利用など発生予防に努め、製造から販売での産業廃棄物(製品・原材料の廃棄処分含む)の削減活動を推進しました。

【取組結果】

富山工場を中心に、産業廃棄物の削減と再資源化活動を推進し、ゼロエミッションを維持しました。
産業廃棄物排出量は前年比10%増となりました。
返品率は前年比増となりました。余剰原材料再利用金額は37,000千円となりました。
今後も排出量、返品率の削減に引き続き努力してまいります。

人の健康と環境に優しい商品の開発

人の健康と環境にやさしい商品の販売拡大に努めました。また、自社直営店でLEDなどを使用した環境配慮型店舗をエコshopと定義し販売強化に取り組みました。

【取組結果】

環境商品販売比率は前年からダウンし5.8%となりました。

LED照明等を積極的に取り入れたエコshopは今年度新規・改装店を含め13店舗となりました。

今後も商品開発、新規・改装店へのエコshop化を積極的に進めてまいります。



LED照明を取り入れたザ・ノースフェイス りんくうプレミアムアウトレット店

自然共生社会へ向けての取組

地域社会と共存出来る企業自然とのふれあいの機会を増やしました。その一環として、直営店でのワークショップを通じて環境教育を実施。このほか地域内での清掃を推進しました。

【取組結果】

THE NORTH FACE HELLY HANSEN 鎌倉店ではヨットで使用したロープを使って犬のリードを作るワークショップなどを開催しました。東京本社では近隣4社合同で周辺地域の清掃活動を3回行いました。今後も各店の特徴を生かしたワークショップ、清掃活動等を通して、地域のみなさまとふれあう機会をもうけてまいります。



犬のリードを作るワークショップ



東京本社周辺での清掃活動

ISO14001 認証取得

当社はグループ会社においても、環境負荷の低減をはじめとする環境保全に取り組んでいます。2011年11月にグループ会社の一員となったブラックアンドホワイトスポーツウェア株式会社は、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得するために活動を開始いたしました。

PASSION | スポーツとともに情熱的に働く

働く者自身が心身ともに健康でなければ、スポーツを通して社会を豊かにすることはできません。すべての従業員が心身ともに健康な状態で働けること、そしてアスリートとしての情熱や、スポーツとの接点をつねに持ち続けられること。当社はさまざまな制度や取り組みを通して、そのような社会環境整備を行っています。



企業人であることと アスリートであることの両立を支援

当社には国際大会代表選手としての出場経験がある者を含め、いまでも現役でスポーツに取り組む社員が数多く働いています。ここではその一人をご紹介します。

鈴木孝幸
(事業統括本部 スピード事業部 事業グループ 販売促進チーム)

6歳から水泳を始め、アテネ・パラリンピック(2004年)に17歳で出場。現在もゴールドウィンに勤務しながら競泳選手としての活動を続ける。ロン

ドン・パラリンピック(2012年)では日本競泳チームの主将を務め、150m個人メドレー、50m平泳ぎ、50mバタフライ、50m自由形、100m自由形に出場し、50m平泳ぎと150m個人メドレーで計2つの銅メダルを獲得した。2020年東京オリンピック構想に協力し、2013年1月には同招致委員会に同行するパラリンピアンとして、国際オリンピック委員会(IOC)と国際パラリンピック委員会(IPC)に立候補ファイルを提出した。

「年二回ある大会まえの合宿を除いても、平均して月60時間程度を練習に当てています。お客様に迷惑のかからぬよう気をつけるのはもちろん、周りの社員の方へも迷惑のかからないよう、時間内に仕事をキチンと終わらせるように気をつけています。国内では、チームゴールドウィンとして登録し、チーム名の入ったジャージを着ているので、会社の代表選手としての自覚があります」(談)

活発なクラブ活動

ひとりひとりの心と身体の健康だけでなく、スポーツする楽しさ、喜びを部署や立場を越え、共に助け合い分かち合う中で、コミュニケーションの輪を広げていくため、当社ではクラブ活動を積極的に推奨しています。クラブ活動を通じて培われた共同意識は、職場環境の向上、仕事に対する意欲向上となり、熱い職場づくりに役立っています。クラブ活動を通じて社内外の関連商品を体感することは、スポーツアパレル企業としての商品開発のヒントにもなります。

現在活動中のクラブ

(東京地区) 野球部/ゴルフ部/テニス部/フィッシング部/ランニングクラブ/モーターサイクル部/サッカー・フットサル部/アウトドア部/自転車部/健脚クラブ/マウンテンクラブ/庭球倶楽部

(富山地区) 野球クラブ/テニスクラブ/剣道クラブ/ソフトボールクラブ/フットサル同好会/百名山同好会/アスレチック同好会/モーター同好会/ゴルフ同好会/サーフ&スノー同好会/ヨガ同好会



サッカー・フットサル部



マウンテンクラブ



野球部

秋の運動会でスポーツを通じたコミュニケーション

当社では社員とその家族の間での親善とコミュニケーションを促進するため、東京地区で毎年秋に運動会を開催しております。今年度は2012年10月13日にとしまえんにて開催され、東京地区勤務の327名(うち子ども44名)が参加しました。今年も各部門ごとのチームにわかれて、リレー、綱引き、玉入れ、徒競走などが行われました。楽しいムードの中にも、競技種目ともなると本気モードになるのが当社ならではの。社長や役員も和気あいあいとすべての従業員が日頃の業務の枠を超えて一体感を味わいました。



自転車通勤を社内制度として奨励

当社では、スポーツパレル業界として初めて自転車通勤を社内制度化しています。その目的は、「社員自らが自転車に乗ることで、自転車を楽しむお客様の視点に立つこと」、「より生き生きとした生活を送ること」、「自転車によるエコな通勤を通じて、環境意識を高めること」の3つ。経路が2～20キロの社員は自転車通勤が認められ、通勤距離に応じた通勤手当が支給されます。

本社ビル地下1階には駐輪スペースが設けられ、地下1階のシャワー室も、通勤時間帯の7時30分から8時40分まで開放されます。自転車通勤制度の利用者には、7つの禁止事項(飲酒運転や過労運転など)やヘルメット・グローブの着用、任意保険の加入が義務付けられています。

当初は9名ではじまった登録者も、今年度は17名に増えました。このうち1名が警視庁主催の自転車総合対策推進検討委員会より、委員としての委嘱を受けています。民間企業からの唯一の参加者として、企業人への自転車に関する交通安全教育や啓蒙活動への提言を行いました。



歩くことから健康をクリエイトする 「ウォーキングキャンペーン」

当社はゴールドウィン健康保険組合による保険事業により、疾病予防のための各種検診をはじめ、禁煙、体育奨励などに積極的に取り組むことで、病気の早期発見、さらには病気にならない健康な身体作りをめざしています。その一環として、毎年行われている「ウォーキングキャンペーン」が、今年度も2012年10月1日～11月30日までの計61日間、当社役職員を対象に開催されました。希望者は歩数計を装着して、歩数を記録表に毎日記入。1日平均1万歩以上で完歩賞、7000歩以上1万歩未満で敢闘賞、5000歩以上7000歩以上で努力賞がそれぞれ贈呈されました。また、個人表彰だけではなく団体表彰もあり、平均歩数上位3チームに商品が贈られました。

身体と精神をいつも ベストコンディションに保つ

アスリートが身体や精神を整えるように、社員ひとりひとりがつねに100%の力が発揮できるよう、健やかであってほしいと願っています。そのために、当社では健康管理体制を充実させ、病気の予防・早期発見に力を入れています。今年度も事業所従業員の受診率は、ほぼ100%を達成しました。メンタルヘルスに関しても、とくにオーバーワーク気味の社員を対象にヒアリングを実施し、産業医との連携によりカウンセリング等も実施しました。また東京、大阪、富山地区では月1回の安全衛生委員会を開催し、職場の安全衛生に関して従業員との連会を図りながら環境整備に努めています。

ワークライフバランスを大切にした生活で 明日へのパッションを創出

オン・オフを大切にメリハリのある健康的な生活をおくることでこそ、仕事に情熱を傾けることができます。当社ではタイムレコーダーを利用した勤怠管理体制を強化し、時間外勤務の削減に積極的に取り組んでいます。過重労働者は放置せず産業医の問診、健康管理指導、改善指導などを行ないました。その結果、今年度の過重労働者は、前年度比15%減を達成することができました。

今年度実施したワークライフバランスのための具体策

- ・週一回のNO残業DAYの実施
- ・過重労働者の産業医カウンセリング
- ・管理職への個別の残業実態のフィードバックと改善対策の実施徹底、
上長への個別指導の徹底
- ・適性人員数の配置再検討

安心して働けるよう、 万全の防災対策整備

東日本大震災での教訓と、2013年4月1日より施行された「東京都帰宅困難者対策条例」への対応として、当社では前年度より様々な防災対策を行ってまいりました。

東京本社においては、ビル躯体調査を行い、震度7でも耐えることを確認いたしました。また、事務所内の什器転倒防止策として、棚、ラック、書庫、コピー機等の転倒防止工事を実施いたしました。防災ヘルメットや帰宅用地図の全員配布、帰宅困難者の3日分の食料、飲料水、簡易トイレやマスクや薬などの衛生医療用品、宿泊用毛布・寝袋、対策本部には携帯テレビや携帯ラジオ、乾電池などの備品備蓄を進めました。

今後は、東京地区関係会社、支店・営業所も上記に準じての対応を進めてまいります。



SOCIAL | 誰もがスポーツを楽しめる社会へ

トップアスリートだけでなく、老若男女そしてハンディキャップのある方もふくめ、誰もが身体を動かす喜びを分かちあえる社会をつくりたい。そんな思いから、各種スポーツイベントへの協賛や、地域社会への貢献、自然保護基金への支援とともに、バリアフリーのための研究開発も行っています。

「試合がしたい」という部活生の声から生まれた、高校バスケットボール部が参加できるトーナメント 「チャンピオンカップ2012」

2010年度から始まった「チャンピオンカップ」は、「日々の練習で自分を高め、仲間との絆を深めている高等学校のバスケットボール部員たちに向けて、練習の成果を発揮し、腕試しやゲームを純粋に楽しめる場を提供したい」という思いから生まれました。バスケットボール専門コミュニティサイト「Rokyu.Net」と連動し、一層バスケットボールを楽しめる環境づくりをめざしていきます。

2012年12月23日、24日開催の「チャンピオンカップ2012 at TOKYO」では男女各16チーム、2013年3月18日、19日開催の「チャンピオンカップ2013 at OSAKA」では男子16チーム、女子11チームが熱戦を繰り広げ、各優勝チームには「チャンピオン昇華プリントユニフォーム」1チーム分が贈呈されました。



プロテニスプレーヤーと地元ファンが交流する「第11回甲府国際オープン2013」

世界に羽ばたく若手プロ選手に多くのチャンスを提供することを目的とし、地元のテニスファンによる個人サポーター制を導入した、地域一丸で支えるオープントーナメントです。2010年大会からは大会を通じて地球環境への配慮を意識した、「エコ」をテーマとしたトーナメント運営をめざし、様々な活動が始まりました。主催・運営スタッフ、スポンサー企業、地元テニスファン、選手たちが、ともに「エコ」への意識を共有できる、個性溢れる大会として活動しています。

2009年よりこの大会のスポンサーをつとめる「エレッセ」は、2013年3月に開催された本大会にも繰り返しリサイクル可能な「循環型リサイクル」スタッフウェアの提供をしています。また大会期間中、現役トッププロとテニスファンの方々が交流しトッププロのプレーを体感できる「エレッセチャリティーテニスクリニック」の開催をサポートしました。



佐渡島を楽しみつくす自転車レース 「2012 スポニチ佐渡ロングライド210」

このレースは佐渡島をまるまる一周する210kmコースを始め、余裕を持って走りたい人のための、佐渡北部「大佐渡」の景色を満喫でき走り応えも十分な130kmコース、ロングライド初心者におすすめしたい100kmコース、ファミリー&カップルサイクリングにうってつけの40kmの観光グルメリイドコースと本格サイクリストから、ファミリー&カップルサイクリングまで楽しめるレースです。

2006年から協賛をつとめている当社は5月20日に開催された本大会にも協賛しました。大会会場では展示・販売ブースを設置し3,000名を超えるライダーの皆さんとコミュニケーションを図りました。



新緑の湖畔を一周する 「第32回スポニチ山中湖ロードレース」

この大会は、新緑の湖畔を走る大変人気のある大会で、ゴールドウインでは30年に渡ってこの大会の協賛をつとめています。今年も参加賞として配布される「チャンピオン」のTシャツと、スタッフジャンパーを制作・協賛しています。

大会会場では、チャンピオン記念撮影コーナーの設置、ゴールドウイン社製品「チャンピオン」の展示・販売など、約12000名の参加ランナーの皆さんとのコミュニケーションを図りました。また、生前に大会運営に貢献した当社社員、故・吉田裕美子の功績を讃えて、本大会に参加するランナー、ボランティアの中から、もっとも輝いている女性へ「吉田裕美子賞」が贈られます。



女性ランナーが都会の木立を駆け抜ける 「渋谷・表参道Women's Run」

この大会は、東京渋谷区の代々木公園をスタート、ゴールとし、表参道を駆け抜ける、日本最大級の女性のための大会です。当社では4,000名のランナーが参加した2013年3月3日に行われたこの大会に「ザ・ノース・フェイス」で協賛しました。

「ザ・ノース・フェイス」は1994年、明治通りに直営店をオープンして以来、ブランドの拠点を置いてきた原宿、表参道地区や明治神宮、代々木公園を女性ランナーが楽しく、美しく走る本大会を、“Green Running”（自然と親しみ、季節を感じながら気持ちよく走ることの素晴らしさ）を体現したイベントであると考えております。



障がい者福祉を支援する取り組み 「寛仁親王記念 第14回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」

「寛仁親王記念第14回北陸ウェルフェアゴルフトーナメント」が、2012年10月16日にゴルフ倶楽部ゴールドウインで開催され、当社も協力をしました。

当トーナメントは、大会を通じて障がい者福祉への正しい理解を深める活動の推進を図り、スポーツの語源である「楽しむこと」を認識し、ゴルフの原点である「フェアプレー」の精神に立脚し、「ルール・マナー・エチケット」に通暁するプレイヤーを育成することを目的としたもの。富山市出身の当社所属の森口祐子プロにも参加しました。

この大会は1999年以降毎年開催され、寛仁親王殿下を大会顧問にお迎えし、運営に関するご指導をいただいております。

今年度は瑤子女王殿下がご臨席され、「福祉活動が続けられることを願っています」とお言葉を述べられ、優勝者に優勝杯を手渡されました。当トーナメントの収益金1,000,000円は、障がい者の就労支援を行う福井県あわら市のNPO法人「ピアファーム」に贈呈しました。



町並みにふさわしい店舗として 京都市が指定「ザ・ノース・フェイス京都店」

「ザ・ノース・フェイス京都店」は2013年3月20日、京都景観賞屋外広告物部門の「優良意匠屋外広告物」に指定されました。これは京都市が景観の維持及び向上に寄与し、他の模範となる優れたデザインの屋外広告物に優良意匠屋外広告物に指定するというものです。

「ザ・ノース・フェイス 京都店」は、2009年4月にオープンしました。京都の景観に溶け込む町家風の外観を持ちながら、天然石を使用した柱、効果的に配置された植物など自然の質感を感じさせる店内を雄大な山の写真で演出する、アーティスティックな雰囲気的空間デザインにこだわったショップです。



若い世代の挑戦を応援する

学生のインターンシップ受け入れ

望ましい勤労観、職業に関する知識・技術を身につけるために、近年インターンシップ実習を実施する中学・高校が増えています。当社でも若い世代を育成するために、1999年度から職場体験の機会を設けています。本年度は富山県小矢部市立津沢中学校2年生、富山県立高岡工芸高校2年生の参加がありました。

アウトドア自然保護基金「コンサベーション アライアンス ジャパン」に参加

「コンサベーション アライアンス ジャパン」は、会員であるアウトドア関連企業がビジネスで得た利益を環境団体に活動資金として援助・提供する、アウトドア自然保護基金です。「自分たちが自然を楽しむための用具やウエアの販売サービスなどで企業活動を行っているのなら、自然保護のために貢献しなければならない」という同基金の理念に賛同し、当社は今年度も9グループへの支援に参加しました。2013年4月現在、14社20ブランドが参加し、設立以来106のグループに提供してきました。ゴールドウインは設立初年度から基金を提供し、常任理事としてもこの活動に関わって参りました。



バリアフリーなユニバーサル水着を開発

スイムウエアのリーディングブランド「スピード」は、水に親しむすべての人をサポートすることを使命としています。その一環として、体を自由に動かせない子どものための水着を開発する産官学連携プロジェクトに参加し、技術面から支援してまいりました。体を自由に動かせない子どもの水泳で一番問題になるのは着替え。「スピード」のユニバーサル水着では、教員が子どもを寝かせたまま、短時間での着脱が可能になるよう工夫が凝らされています。

コンサベーション アライアンス ジャパン 2012年度の支援先

支援先
めんがめ倶楽部
帷子川ウォッチンググループ
特定非営利活動法人共存の森ネットワーク
カムリウミスズメ個体数調査チーム
日本自然保護協会(ジャングサウォッチ)
NPO 法人群島鳥類研究会
特定非営利活動法人OWS
三嶺の森をまもるみんなの会
特定非営利活動法人禮の会
札幌ウッディーズ



会社情報

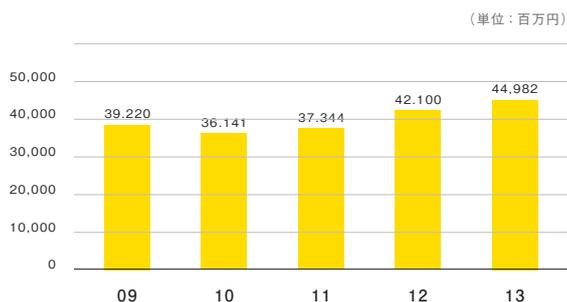
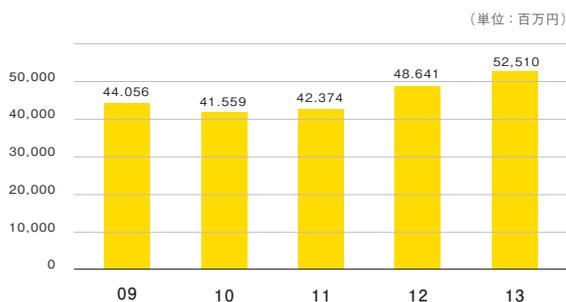
- 株式会社ゴールドウィン
GOLDWIN INC.
- 東京本社
〒150-8517 東京都渋谷区松濤2-20-6
TEL 03-3481-7201(代表)
- 本店
〒932-0112 富山県小矢部市清沢210
TEL 0766-61-4800(代表)
- 設立
昭和26年12月22日
- 資本金
7,041百万円(2013年3月31日現在)
- 年商(連結ベース)
52,510百万円
- 年商(単独)
44,982百万円
- 従業員
1,304名(グループ1,994名)
- 事業所
本店、東京本社、大阪支店、札幌営業所、名古屋営業所、
北陸営業所、福岡営業所
(2013年3月31日現在)
- 会社概要詳細
<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/about>
- ホームページ
<http://www.goldwin.co.jp/>
- 決算公告・決算短信
<http://www.goldwin.co.jp/corporate/info/ir>

経営情報

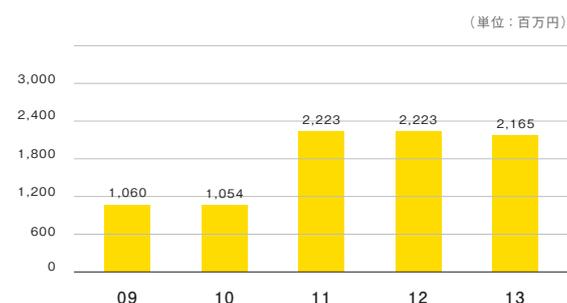
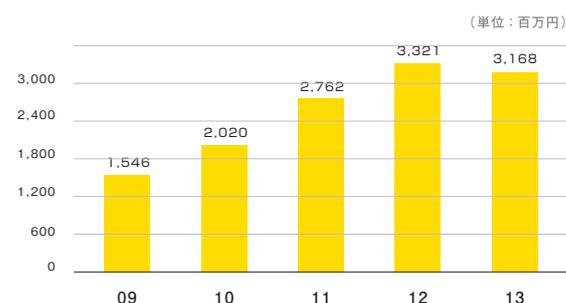
連結

単独

売上高



経常利益



当期純損益

